



中央検査部だより



2021年3月吉日発行 第75号

LAMP法（ランフ法）って何？

～院内の新型コロナウイルスの遺伝子検査～

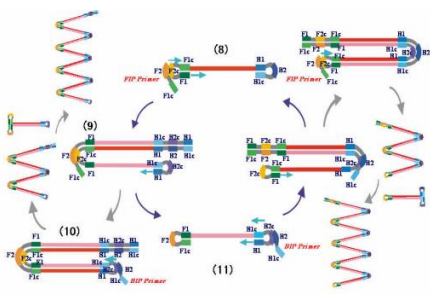
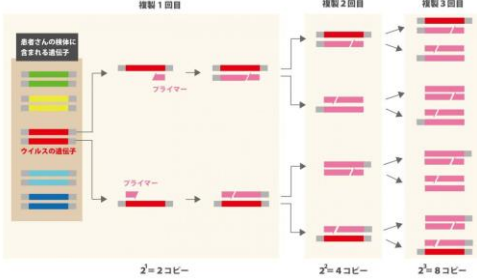


PCR法と何が違うの？

LAMP法は、栄研化学というメーカーのオリジナルの遺伝子検査法じゃ。
増幅効率が良いため、一般的なPCR法より測定時間が短縮できることが特徴じゃ。



LAMP法の4つの特徴

	LAMP法	PCR法
	 <p>栄研化学 HP より引用</p>	 <p>大阪大学微生物病研究所より引用</p>
プライマーの数	4つ	2つ
温度変化	不要(等温でOK)	必要(3回)
最小感度	50コピー/テスト	2コピー/テスト
※反応時間	35分	60～120分

※反応時間は検査時間とは異なります。検査時間は、さらに遺伝子を抽出する時間を要し、検体数によって異なるため、今回は記載していません。

タイムラプスインキュベーターを導入しました！

今回は生殖医療室で昨年10月に導入した新型の培養機器『タイムラプスインキュベーター』の特徴を紹介します。

特徴①受精卵の発育を動画で確認できる！

タイムラプスインキュベーターでは**5分毎に受精卵の写真を撮影**し、それを繋ぎ合わせることで発育の様子を動画で観察することができます。受精卵を庫外に出すことなく観察できるため、受精卵に与える光や温度などの刺激が減ることで従来に比べて培養環境が向上しました。

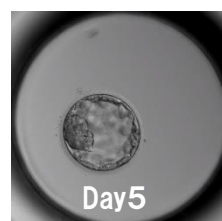
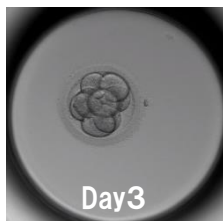
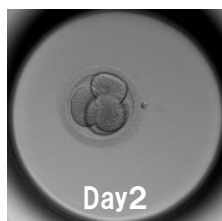
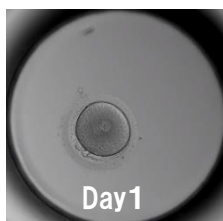


特徴②妊娠しやすい受精卵を選択できる！

受精卵の発育が動画で観察できるため、異常な細胞分裂や発育の速度がわかります。同じような形態の受精卵でも、**形態や速度が異常な細胞分裂をした受精卵は、妊娠成績が悪いという報告があります**。そのような受精卵を避けて選択し、移植することで、妊娠成績の向上が期待できます。

特徴③スタッフの負担軽減ができる！

以前は受精のサインを見逃さないために、**深夜早朝に出勤し受精の確認を実施することもありました**。タイムラプスインキュベーターでは受精卵の様子を後から動画で観察できるため、受精のサインを見逃すことはありません。受精卵の観察業務に時間的余裕ができたことで、スタッフの負担軽減だけでなく、他の業務に時間を割くことができ、業務の効率化も図れるようになりました。



甲状腺刺激ホルモン(TSH)の測定値・基準範囲変更、 遊離トリヨードサイロニン(FT3)の基準範囲変更について

甲状腺刺激ホルモン(TSH)は測定試薬間差が大きく問題となっていました。国際臨床化学連合(IFCC)により測定試薬間差の軽減を目的とした国際的な標準化(ハーモナイゼーション)が可能であることが確認されたため、測定値・基準範囲の変更を実施することとなりました。また、遊離トリヨードサイロニン(FT3)は基準範囲の設定に用いる母集団条件の変更に伴い基準範囲が変更となります。両項目ともに2021年3月から変更予定です。詳細については電子カルテ掲示板に掲載いたしますので、ご確認ください。

問い合わせ先: 生化学検査室(内線 387, 388)